

## 全国学力・学習状況調査の分析を保護者と共有する

- 1 全国学力・学習状況調査のねらい、内容  
本調査は、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるためのもので、全国の小学校6年生と中学校3年生が調査対象となっております。調査内容は、国語、算数の「教科に関する調査」と、生活習慣や学習環境に関する「質問紙調査」です。  
児童の学力(国語科、算数科)や生活習慣・学習環境に関して把握した課題や改善策について、保護者の皆様の理解と協力を得て、学力向上を一層図っていくために活用します。
- 2 本校の結果  
〈国語〉問題 … 市平均より高い {県平均より高い} {全国平均より高い}  
〈算数〉問題 … 市平均より高い {県平均より高い} {全国平均より高い}
- 3 本校の成果・課題及び今後の取組  
国語、算数ともに、基礎・基本を注意深く読み、じっくり取り組ませることが必要です。記述問題に対して粘り強く取り組んでいることが分かりました。特に、算数科「数と計算」「数量関係」領域において教法的な考え方の伸びが見られました。一方国語科では、児童一人一人の活用力の個人差が大きかったことが分かりました。これらのことを受けて、今後、学校として以下の内容に取り組んでまいります。  
〈国語〉 ○ 「話す・聞く」の単元を中心として、相手や目的を意識させる指導を積み重ねていく。○ 「読解」の単元を「書く」として、その間に実施し、継続して練習を取り組む機会を多量に提供する。児童の興味・関心を引き出し、読解力や思考力、表現力を高める。○ 「漢字」の単元を「書く」として、その間に実施し、継続して練習を取り組む機会を多量に提供する。児童の興味・関心を引き出し、読解力や思考力、表現力を高める。  
〈算数〉 ○ 「図形」の単元を中心として、問題解決の過程を重視し、学習の工夫を工夫していき、答えを導き出す力や、活用力を高める。○ 「割合」の単元を中心として、問題解決の過程を重視し、学習の工夫を工夫していき、答えを導き出す力や、活用力を高める。  
また、児童の学習状況調査：「質問紙調査」の結果、本校の傾向として、以下の内容が浮き彫りになり、改善を促すこと。○ 昨年度より、読書や新聞を読む習慣が定着していること。○ 昨年度より、読書や新聞を読む習慣が定着していること。○ 昨年度より、読書や新聞を読む習慣が定着していること。○ 昨年度より、読書や新聞を読む習慣が定着していること。

全国学力・学習状況調査の分析結果を保護者にも伝え、結果に対する学校の取組を伝える。

- 4 保護者の皆様へのお願い  
学校では上述のように学習指導を進めるとともに、子どもたちのよさを積極的に伝えながら生徒指導を充実していきます。また、保護者の皆様と連携した生活習慣・学習習慣等の改善に一層取り組んでまいりたいと思っておりますので、ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。  
○ 本日お父さん、お母さん、国語、算数の個票を配付しました。個票には、それぞれの問題の小さな質問と結果及び全国の正答率が示されています。また、福島市教育委員会による「平成31年度全国学力・学習状況調査より」を同封しましたのでご参照ください。  
○ 学習内容を確実に身に付けるために、学校では、授業と連動した家庭学習を推進していきます。ご家庭では、お子さんが意欲をもって家庭学習に取り組むことができるように、引き続き称賛や励まし、学習内容の確認などをお願いします。  
○ 今回の調査からは、これまで同様、学力と生活習慣との相関において、「睡眠時間を多く確保し、朝食をしっかり取っている子ほど学力が高い」「テレビ視聴やゲームの時間が少ない子ほど学力が高い」という結果が見られます。また、家族みんなが自分を大切にしてくれて、関心をもってくれているとお子さんが実感できることも重要です。よい生活習慣の確立と、温かさあふれる家庭づくりをよろしく願います。

・家庭学習の充実を図るために、学校と家庭で共通理解を図っている。  
・積極的に学校の取組を発信し、児童に対する人的な教育環境を整えてく。

## 「授業スタンダード」を見童の実態に合わせて自校化

## (4) 矢野目小版「授業スタンダード」

段階	子どもの学ぶ姿	考えられる教師の手立て
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの既習事項や新たなことに出会い、それまでの経験や知識との間に疑問や矛盾を感じたことを話し合い、本時の課題をとらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 教師の発問や友だちの考えを正しく「聴き」とらせ、子どもの問いを引き出す。</li> <li>◎ 前時からのつながりを意識した導入をする。</li> <li>◎ 単元導入で子どもから問いを引き出しておき、課題はすぐに提示するが、その課題を子どもたちのものとして意識させる工夫をする。</li> </ul>
見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既習事項や生活経験をもとに見通す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解決の方法を見通す。</li> <li>・ 答えの見当をつける。</li> <li>・ 調べる視点をもつ。</li> <li>・ 学習の見通しをもつ。 &lt;自己決定力&gt;</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 今の自分の現状「<u>自分の立ち位置</u>」(どの既習を使うとできそうか)を確認させる。</li> <li>◎ 「立ち位置」が1時間後にどこへ向かっていくのかを具体的にイメージさせる。立ち位置に応じた意見・考えをもたせ、交流させる。</li> </ul>
学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見通しをもとに課題解決に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノートや資料を活用し、必要な情報を集める。</li> <li>・ 自分の考えをもつ。</li> <li>・ 試しにやってみる。</li> <li>・ うまくいかないところは修正する。</li> <li>・ 分かったところと分からないところを整理する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 思考を促す発問を精選しておく。</li> <li>◎ 机間指導、発言、ノートなどから考えを見取り、指導に生かせるようにしておく。</li> <li>◎ 既習事項の使い方を工夫する。</li> </ul>
学び合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題に向けて話し合い、思考を共有する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友だちの考えをよく聴く。</li> <li>・ 自分と違う考えを理解する。</li> <li>・ 課題解決の内容を理解する。</li> </ul> </li> <li>○ 思考を吟味する中で課題解決をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正誤を確かめ、意味や理由、関連等を考える。</li> <li>・ 規則性を見つける。</li> <li>・ 自分の考えを見直して再構築する。</li> <li>・ より分かりやすい表現にする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 教師のコーディネートにより、子ども同士の「学び合い」が成立し、思考の共有と吟味が子ども主体で行われるようにする。</li> <li>◎ 子どもの聴き方をほめて、育てていくようにする。</li> <li>◎ 教師が子どもたちの発言をよく「聴き」、子どもをつないだり子どもに戻したりして、自己肯定感を高めるようにする。</li> <li>◎ 既習事項の使い方を工夫する。</li> </ul>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 振り返る活動により、学習内容を身に付ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題について分かったことを自分の言葉でまとめる。</li> <li>・ 分かったことを広げて考える。</li> <li>・ 分かったことを生かして適用問題を解く。分からないことは質問する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 課題との整合性を図り、本時に身に付けさせたいことをまとめる。</li> <li>◎ 自己評価や相互評価を取り入れ、自分の立ち位置の変化(既習を活用し、新たな既習事項を習得できたか)に気付かせ、次時や家庭学習への意欲を高めさせる。</li> </ul>
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分から進んで家庭学習に取り組む。</li> <li>○ 次時へつながるような復習・予習に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 保護者との連携を図る取り組みを継続して行うようにする。</li> <li>◎ 家庭学習が次時の導入につながるような課題の与え方を工夫する。</li> </ul>

授業段階ごとに身に付けさせたい力を明記することで、教師が意識して授業を進めている。

<自己評価力>

「まとめ」の後に「振り返り」をしている。自分が何を学んだのか、何を感じたのか、今後は何をしたいのかを振り返り、自己評価力を高めている。

学力向上サイクルを支える授業周辺の取組

5・6年保護者様

令和元年5月22日

福島市立矢野目小学校長 菅野 信幸

特設算数部（算数大好きセミナー）の活動実施のご案内

陽春の候、保護者の皆様にはますますのご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、矢野目小学校では今年度から、子どもたちの学力向上や、目標へ向けて努力する心を育成するというねらいから、毎年10月下旬の行われる「福島県算数・数学ジュニアオリンピック」の参加を目指して、特設算数部を新設いたしました。そのため、特設算数部の活動を今年度から実施したいと考えます。

つきましては、下記内容をご覧いただき、ご理解、ご賛同をいただける場合には、下記「入部申込書」に必要な事項を記入の上、5月29日までに各学級担任にご提出くださいますようお願いいたします。（入部は随時です。5月29日以降でも入部は受け付けます。）

記

1 目的

- 算数に親しむ機会を増やすことで、算数への興味・関心を高め、算数好きを増やします。
○ 福島県算数・数学ジュニアオリンピックに向けて、算数科の学力の向上を目指します。
○ 活動を通して、自主性や向上心を養います。

2 指導教師

3 参加予定の主な大会・コンクール等

- 福島県統計グラフコンクール（夏休み中）
○ 何でもはかってみようコンテスト（夏休み中）
○ 福島県算数・数学ジュニアオリンピック（10月下旬頃）
○ 実用数学技能検定・算数検定
※ 基本的にはお子さんの都合で参加を決定します。（強制はしません）
※ 大会への送り迎えは、保護者の方をお願いします。
※ 各大会についての詳しい内容は、大会・コンクール等が近づいた際に、随時連絡します。

4 練習日程

- 6月～11月にかけ、月に2回程度、放課後の45分間活動を行います。
※ 詳しい日程は、「活動予定表」として配付します。

5 活動内容

- 指導教師が45分間の授業を行います。
○ プリント学習を行います。

算数に興味のある児童の力を高めるために、学年の枠を超えた特設部を設立した。放課後に月2回程度算数部を中心に指導している。

算数オリンピックで出題される問題を解きながら、「うつくしい算数」に触れる機会をつくる。

学力向上グランドデザイン

本校の学校経営ビジョンから

(知) 目をひらき胸をはる子ども

「対話を通して考えを深める

児童の育成」

本校の学力向上の方針

- ◎ 自ら課題を把握し、基礎・基本（各教科・領域における問題解決力、学年に定められた基礎的・基本的な知識や技能、基礎的学び方）を身に付けていく子どもを育てる。
◎ 全学年学習状況調査、県学力テストやNETテスト、単元テストの結果を分析・考察して取り組む。
◎ 学力実態把握及び学力向上への取り組みの推進（学力向上学級プラン）
・指導方法の工夫改善を図る（授業スタンダードの活用）、確に思いついた授業（少人数分割、習熟度別、コース別）
・異級段階に応じた学び方（ノート指導、暗記力・読解力、対話の仕方等）

学校経営・運営ビジョン・学力向上の方針を受けて

「希望の広場」での実践事項

- ◎ 基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付け、目標をもって粘り強く課題に取り組む子どもへの育成
○ 定習と習熟を図る振り返りの時間の確保
・ チャレンジテストによる評価
・ 「家庭学習スタンダード」を活用した学年×10+10分
・ 週1回「自学の日」の設定
○ 自ら学ぶことを工夫できる家庭学習の充実
・ 考えを比べあう場の設定
・ 活用学習シート・定習確認シートを生かした指導
○ 読書の推進
・ 「読書カード」を活用した週2回の「全校朝読」の実施
・ 「読書の手引き」を活用した週末の「全校家庭読」の実施

活用する力の育成

- 指導計画に「活用学習シート」の実施を位置づけ、個々の課題をもとに、小題ごとに分けて実施するなど工夫をして読書の補強をする。また、定習確認シートの過去問やフォローアップシートも効果的に活用する。（4年生以上）
○ 各教科では、単元の終わりに発展的な問題を取り上げ、活用力を養う。
○ 問題文や表・グラフなどから適切に情報を読み取ることができるよう活動を意図的に設ける。
○ 各学年で年間を通じた算数科の個別的な学習形態を工夫し、活用力の育成を図る。

本校児童の実態

- 算数領域に思っている児童が多い。
○ 読書の学習に意図的に取り組む児童が多い。
○ 今の現状に満足してしまし、新たな課題に挑戦し取り進むことができない児童が多い。「もってこい」に思っている児童が多い。
○ 友達や学年との交流による経験の不足や規範意識の低さが見られ、毎と周に際した意欲やコミュニケーションのスキルが身に付いていない。

「福島市の31年度重点事項」

- (日々の「授業の充実」による確かな学力の確立)
1 言語活動の充実による思考力、判断力、表現力等を高めるための構造的な工夫
① 単元で身につけさせたい力は何かを明確にして、単元を構築する。
② 指導計画や単元構成の中で、授業のねらいに迫るために必要で効果的な言語活動を選択・設定する。
2 「授業の充実」のための授業実践の工夫
① <ふたつ・課題>教師の「教えたいこと」を児童の「学びたいこと」に工夫工夫して学習意欲を決定する。
② <自力解決>児童が解決に向かうための教師の働きかけを工夫する。
③ <発表・話し合い>思考を共有したり、興味したりする目的の時間や教師の働きかけを工夫する。
④ <くまど・活用>本時の目標、学習課題（めあて）、児童の学習活動との整合性のあるものとする。
⑤ <振り返り>児童に学んで得た力を自分自身で評価する働きかけを工夫する。
3 全学年での達成を生かした授業の充実
① 一人ひとりの児童にとって「わかる・できる授業」を展開する。
② 共に学ぶよさが実感できる働きかけを工夫する。
4 一人ひとりを生かす指導と評価の一体化の工夫
① 取り（観点ごとの評価軸等）、どの観点で、どんな方法で評価するのかを明確にする。
② 確に思っている児童が充実するよう評価方法を工夫する。

学力向上を支える環境づくり

Table with 4 columns: 学校評価と家庭・地域との連携, 学習意欲を高めるための日常化, 教育課程の管理, 授業力を高める教員研修. Each column contains specific implementation details.

授業と家庭学習の連続性を重視した単元構想

<5学年国語科「物語の良さを紹介しよう」>

必要な既習事項  
・「ゆすげ村の小さな旅館」での不思議な来客(伏線)  
・「世界でいちばんやかましい音」での山場を境にした主人公の心情の変化

(日常生活)  
・ファンタジー作品との出会いによるファンタジー構造(現実→非現実→現実)の理解  
・本・まんが・アニメ・映画・ドラマ

知識として  
・動物に見つかる匂いと臭は失敗しやすい。  
・イギリスの近衛兵は真っ赤な上着に背の高い帽子をかぶっている。

日常的読書活動  
・人物像を捉えながら読む。  
・表現の面白さや工夫に注目して読む。

	第1時	第2時	第3時	第4・5時	第6時	第7・8時	第9・10時	
学習活動	○学習の見通しを持つ。 ・物語の内容を読み取る。 ・物語作りへの話し方方を理解する。 ・物語の良さを知り、解説文にまとめる。	○物語の中で、現実の世界と非現実の世界がどこで変わるかを考える。 ・(班での話し合い) 個人の考えを班で共有する。 ↓ ・(全体での話し合い) 班ごとの考えを全体の場面で共有し、話し合いを通じて全体で吟味する。 ・風がどうとふいてきて、草はザワザワ、木の葉はかさかさ、木はゴトゴトと鳴りました。	○第一場面の叙述を手がかりに、賢治が二人の紳士の人物像をどのように設定したか読み取る。 ・(班での話し合い) 個人の考えを班で共有する。 ↓ ・(全体での話し合い) 班ごとの考えを全体の場面で共有し、話し合いを通じて全体で吟味する。 ・見た目を気にする・残酷・命よりお金を大切にしている・教養がない	○戸の言葉の意味と紳士たちの解釈を考える。 ・(班での話し合い) 個人の考えを班で共有する。 ↓ ・(全体での話し合い) 班ごとの考えを全体の場面で共有し、話し合いを通じて全体で吟味する。 ○「注文」は他の客が店に出しているのではなく、店(山猫)が紳士たちに出していることを理解する。 ○物語を作るときには、展開の場面で山場につながることを理解する。	○物語全体の叙述をもとに、紳士たちの様子や気持ちの変化を読み取る。 ・(班での話し合い) 個人の考えを班で共有する。 ↓ ・(全体での話し合い) 班ごとの考えを全体の場面で共有し、話し合いを通じて全体で吟味する。 ○紳士の心情が恐怖へと変わっていったことを理解する。 ○設定の場面ととらえた紳士の人物像には変化がなかったことを理解する。	○第2時から第6時まで、官沢賢治が物語をおもしろくしようと工夫したことを考える。 ・明確な人物像 ・現実(設定)→非現実(展開・山場)→現実(結末)の構成 ・戸の言葉などのしかり・色彩表現 ・擬声語や擬態語 ・繰り返しの展開	○班ごとに解説文を読み合い、官沢賢治が物語をおもしろくしようと工夫を伝え合う。 ↓ ○各班の中から1〜2名の解説文を推薦し、発表し合う。 ○本単元の学習を振り返り、物語を読んだ感想、今後の学習で頑張りたいことなどをまとめる。	○「不思議な世界へ出かけよう」での物語作り
育てたい姿	・「注文の多い料理店」を詳しく読み取りたい、自分もおもしろい物語を書きたい、という意欲を持つ。	・現実→非現実→現実の構成を理解する。 ・現実→非現実→現実の構成の物語を書くこととする意欲をもつ。	・叙述に即して二人の紳士の人物像を読み取ることが出来る。 ・設定の場面で登場人物の人物像が分かるような物語を書くこととする意欲を持つ。	・戸に書かれた言葉の本意の意味と紳士の解釈とが出来る。 ・賢治のしかけの巧みさを知り、物語作りにしかけを入れてみようとする意欲を持つ。	・物語全体を通して紳士たちの変化を読み取ることが出来る。 ・登場人物の様子や気持ちが変わる物語を書くこととする意欲を持つ。	・物語をおもしろくする要素である物語の構成や表現の工夫を理解する。 ・物語のよさを生み出す構成や表現の工夫を解説文にまとめている。	・物語のよさを伝える解説文を読み合い、感想の交流を通して、自分の考えを広げたい意欲を持つ。 ・次単元の物語作りに意欲を持つ。	

(家庭学習)

- 音読  
・睡語句の意味調べ  
・現実の世界と非現実の世界がどこで変わるかを本文中から探し、境目となる行間に線をひく。
- 音読  
・二人の紳士の人物像が読み取れる叙述と、そこから考えられる人物像をワークシートに書く。
- 音読  
・戸の言葉の意味を復写し、山猫側の意図と紳士の解釈の二通りをワークシートに書く。
- 音読  
・紳士の様子や気持ちが変わる場面をワークシートに書く。  
・読書  
読書の部屋「官沢賢治」
- 朗読  
・紳士や山猫たちの心情、様子が伝わるように工夫する。

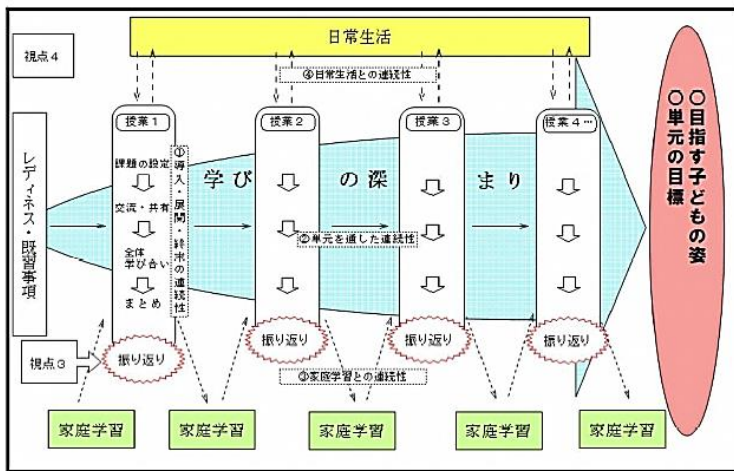
全職員が、授業と家庭学習の連続性を意識した単元を構想している。

学級掲示用(話し方・聞き方)

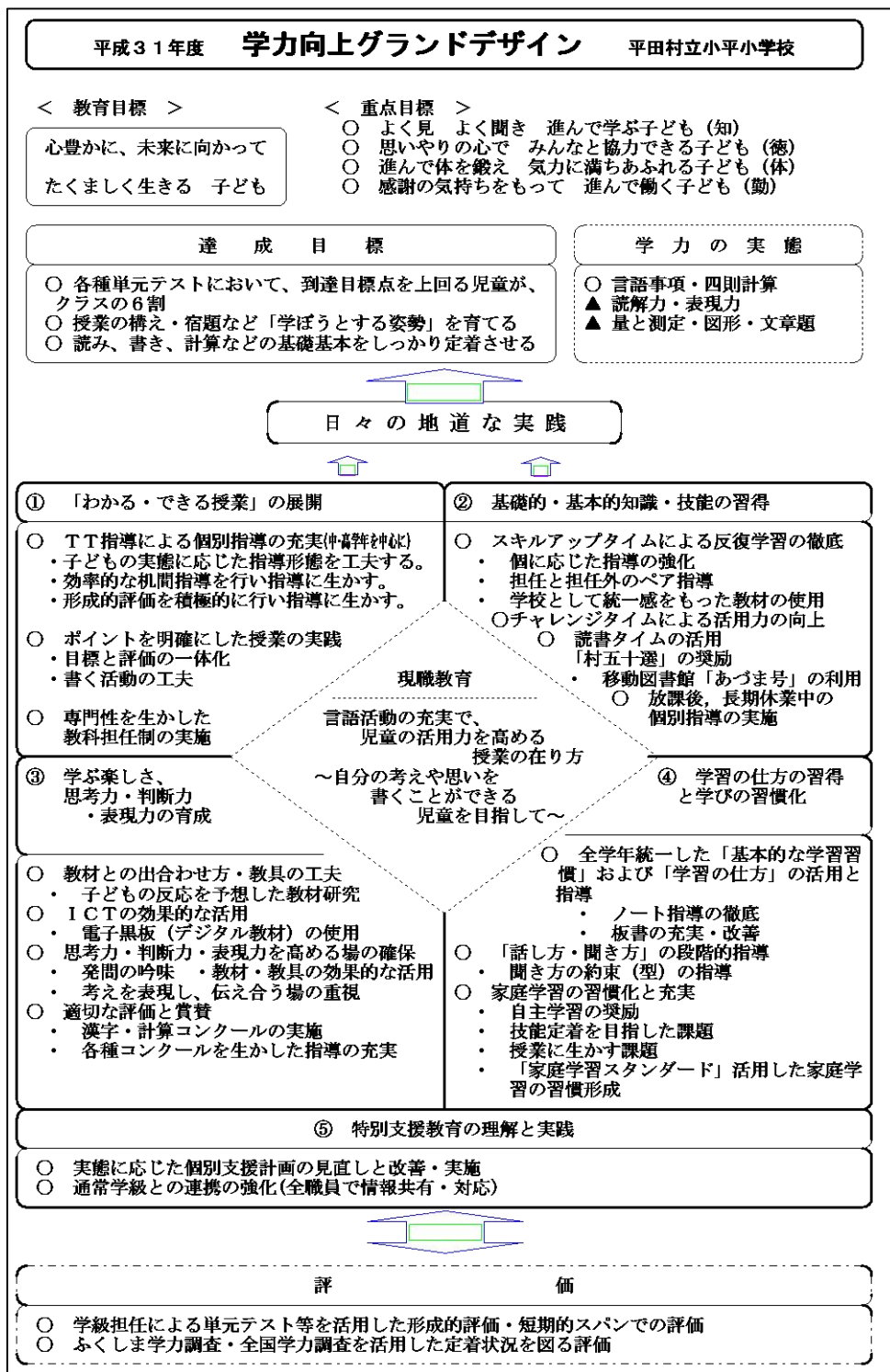
こんな話し方、聞き方ができるようになろう!

レベル	話すこと	聞くこと	「話し合い」を大切にしよう!
レベル6	・もとになる考え方を明確に話す ・自分の意見を的確に話す 「このように」「つまり」「このように」など言葉でまとめる	・自分と似ているところやちがうところを聞き分ける	あふ、分かる、分かる。それこそだよ。もう少しくわしく教えて! 具体的にはどんな感じ? どんなイメージ? もし〜だとしたら? この場合は、私と違ってどう思う? この意見を〜と聞いたらどうかな? ...ということば、つまり〜ということばね。
レベル5	・筋書の仕方を工夫する(ゆやまごを添えて) 「この後(ワラフ)を見てください、これは〜」	・話す人の気持ちを考えて聞く	聞いたことが分かる気がする。○○さんが言いたいのは、こういうことだよ。
レベル4	・具体例を挙げて話す 「前は〜です。」「自分たちで司会をする」「このまま、いいですか」	・自分の考えと比べて聞く	あ、同じだ。ちよつちがうかも。でも、わたしは...。みんなを含めると...。もつと他の考えを聞いてみよう!
レベル3	・理由をはっきり話す 「理由は〇つあります。1つ目は〜です。2つ目は〜です。」「だから」「なぜなら」	・伝えたいことは何かを考えて聞く	例でもいいよ、言ってお。そうか! なるほど、そういうことね。つまり、どういうこと? 大層なのは、...ということだね。
レベル2	・順序を教える言葉を添えて話す 「はじめに(まず)」「つぎに」「さいごに」	・短くメモをとりにながら聞く ・分らないことは聞き進まず	うん、うん。なるほど。わかる、わかる。へえ。そうなんだ。だよええ。わたしも、そう思う。いい考えだね。それで、それで? それか? どういう意味? どんな感じなの? もうちょっと!
レベル1	・順序が「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」に、「どうした」	・相手の自(顔)を見て最後まで聞く	

学びの連続性のイメージ図



## 学力向上グランドデザイン



## めざす教師の姿

- 「仕事に対する使命感や誇り」「子どもに対する愛情や責任感」  
「常に学び続ける向上心」をもつ教師
- 「子どもの心に火をつける」教育に情熱・意欲をもつ教師
- 「子どもの立場に立った指導」ができる人間性豊かな教師
- 「子どもに力を付け、育む指導力」を有し、発揮できる教師



【表現活動の充実】

基本的な学習習慣

基本的な学習習慣 小平小学校

	1・2年生	3・4年生	5・6年生
学習の準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業が始まる前には席について、自分なりの学習をしている</li> <li>前時の学習を振り返る</li> <li>学習が終わったら、すぐに次の時間の準備をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時計を見て行動する</li> <li>時間になったらすぐ席について、進んで学習している</li> <li>本時の学習の見通しをもつ</li> <li>学習が終わったら、すぐに次の時間の準備をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時計を見て行動する</li> <li>時間になったらすぐ席について、進んで学習している</li> <li>本時の学習の見通しをもつ</li> <li>学習が終わったら、すぐに次の時間の準備をする</li> </ul>
必要な学習用具	<p>下敷き、鉛筆(4Bか2B)、消しゴム(四角、白色、においのないもの)、赤青鉛筆(または赤青ボールペン)、直定規、はさみ、のり、色鉛筆、クレヨン、ものさし(2年)、三角定規(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書は左側、ノートは右側、筆記用具は机の右上にそろえて置く</li> <li>必要なものを取り出して、筆入れは机の中にする</li> </ul>	<p>下敷き、鉛筆(2B～B)、消しゴム(四角、白色、においのないもの)、赤青ボールペン、直定規、はさみ、のり、色鉛筆、ものさし、三角定規、コンパス(4年)、分度器(4年)</p>	<p>下敷き、鉛筆(2B～B)、消しゴム(四角、白色、においのないもの)、赤青ボールペン、直定規、はさみ、のり、色鉛筆、ものさし、三角定規、コンパス、分度器</p>
机の上	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書は左側、ノートは右側、筆記用具は机の右上にそろえて置く</li> <li>必要なものを取り出して、筆入れは机の中にする</li> </ul>		
挙手の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>手をまっすぐ挙げる(「はい、はい」を連発しない)</li> </ul>		
あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の始めと終わりは、日直(係)の合図に従い座りたままであいさつをする</li> </ul>		
聞き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞くときの4つの約束(話す人を見る、耳をすまします、口をささまない、手をひざの上に置く)</li> <li>自分の考えと同じか違うか、考えながら聞く</li> <li>話を聞いて「なるほど」と思ったら、うなずき、相づち、拍手などをする</li> <li>友達の考えを命やかしたり笑ったりしない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞くときの4つの約束(話す人を見る、耳をすまします、口をささまない、手をひざの上に置く)</li> <li>話を聞いて「なるほど」と思ったら、うなずき、相づち、拍手などをする</li> <li>どんな話をしようとしているのか考えながら聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞くときの3つの約束(話す人を見る、耳をすまします、口をささまない)</li> <li>友達のよいところを見付けようとしながら聞く</li> <li>友達の考えと自分の考えを比べながら聞く</li> <li>大事なことはどういふことで、いくつあるのかなどを考えながら聞く</li> <li>必要に応じてメモをとる</li> </ul>
話し方	<ul style="list-style-type: none"> <li>指名されたら、「はい」と元気に返事をする</li> <li>『声のものさし』</li> <li>0の声(無言)、1の声(隣と)、2の声(グループで)、3の声(学級全体で)、4の声(外、体育館で)</li> <li>順序を考えて話す</li> <li>大事なことをおさえ、分かりやすく話す</li> <li>結論を先に、理由を付けて話す</li> <li>『～だと思えます。そのわけは～だからです。』</li> <li>「(みなさん)はどうですか。」</li> <li>「わたしは～だと思います。」</li> <li>「(みなさん)はどうですか。」</li> <li>「～さんと同じです。そのわけは～だからです。」</li> <li>「～さんちがいます。そのわけは～だからです。」</li> <li>一番遠くの友達の方に体を向けて話す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指名されたら、「はい」と元気に返事をする</li> <li>『声のものさし』</li> <li>0の声(無言)、1の声(隣と)、2の声(グループで)、3の声(学級全体で)、4の声(外、体育館で)</li> <li>順序を考えて話す</li> <li>相手の話の内容を受けて話す</li> <li>筋道を立てて話したり、根拠つけて話したりする</li> <li>「～だと思えます。そのわけは～だからです。」</li> <li>「(みなさん)はどうですか。」</li> <li>「～さんは～と言いますが、わたしは～のところは同じですが、～のところは少し違います。」</li> <li>「～までは分かりましたが、～についてはまだよく分かりません。」</li> <li>一番遠くの友達の方に体を向けて話す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指名されたら、「はい」と元気に返事をする</li> <li>『声のものさし』</li> <li>0の声(無言)、1の声(隣と)、2の声(グループで)、3の声(学級全体で)、4の声(外、体育館で)</li> <li>順序を考えて話す</li> <li>相手の話の内容を受けて話す</li> <li>筋道を立てて話したり、根拠つけて話したりする</li> <li>「～だと思えます。そのわけは～だからです。」</li> <li>「(みなさん)はどうですか。」</li> <li>「～さんは～と言いますが、わたしは～のところは同じですが、～のところは少し違います。」</li> <li>「～までは分かりましたが、～についてはまだよく分かりません。」</li> <li>一番遠くの友達の方に体を向けて話す</li> </ul>
書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい鉛筆の持ち方を覚える</li> <li>濃い鉛筆で書く</li> <li>ノートを押さえて書く</li> <li>背中を伸ばして書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なるべく濃い鉛筆で書く</li> <li>シャープペンシルは使わない</li> <li>ノートを押さえて書く</li> <li>背中を伸ばして書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なるべく濃い鉛筆で書く</li> <li>シャープペンシルは使わない</li> <li>ノートを押さえて書く</li> <li>背中を伸ばして書く</li> </ul>

## 学力向上グランドデザイン

矢祭町立矢祭小学校

教育  
目標

学力向上にかかわる学校経営方針

- ① 基礎的・基本的な学力の定着と活学力の向上を図ります。
- ② 子どもの学習意欲を育て、主体的に学ぶための学習環境を整えます。
- ③ 体験的・探究的な学習を充実し、主体的・対話的で深い学びを実現します。

実態の  
分析・  
把握

児童の実態

- ・学力及び学習意欲が個人差が大きい。
- ・発言や発表に積極性が育ってきた。
- ・言語で表現する力が育ってきた。
- ・読書習慣が二極化している。

H30年度 標準学力調査の結果

改善・向上・評価のための数値目標

【単元テストの目標値】

- 国語科・算数科
- 理科・社会科
- 【標準学力調査】

【県学力調査】

【全国学力・学習状況調査】

目標の  
設定

矢祭小学校の授業スタンダード

教材との出会い

学習課題の把握

ねらいを明確にする

まとめと整合性のある課題の板書、単元計画から課題確認、資料や発問で意欲や解決の見通しをもたせる。

追究・解決

自力で解決する場を確保する

机間指導で個人思考の状況をとらえ、必要な指導・支援をする。集団思考の場でどのように取り上げるか構想を練る。

話し合い・表現の場を確保す

個々の考えの取り上げ方を工夫する。話し合いをコーディネートし、本時のまとめへと練り上げる。思考過程を可視化する。

まとめ・振り返り

ねらいにそってまとめる

個々のまとめを発表させ、学びの共有化を図る。達成状況の評価し、補充・発展学習や家庭学習につなげる。

新たな学び

次時につなげる

「分からないことに気づく」「新たに追究したいことが見つかる」ように働きかける。

生徒指導の機能を生かした授業

- ① 一人一人の学びを生かす
- ② 自己決定による自力解決の場
- ③ 分かった・できたことの発表
- ④ 評価と個々への補充・発問

資料②

授業の質的改善

授業改善アクションプラン10

- ① まとめと整合性のある学習課題の設定
- ② 明確な見通しを持たせる場の工夫
- ③ 自力解決の場を設定と実態の把握
- ④ 考えを交流する場の位置づけ
- ⑤ 話し合いのコーディネートの充実
- ⑥ 構造的で明確な板書の工夫
- ⑦ 児童の思考を活性化する明確な発問
- ⑧ 適切な評価による学習展開の工夫
- ⑨ 学習課題と整合性のあるまとめ
- ⑩ 1問以上の習熟の時間の位置づけ

PDCAサイクルを生かした授業の改善

資料③

実践・  
授業改善

A 課題の明確化と改善

陥没点の補充指導の実施  
教師の指導の癖の改善  
次年度の教育計画の改善  
年間指導計画等への反映

C 結果分析による実態把握

各種テスト、学力調査の分析  
誤答分析による児童の実態把握  
教師の指導の癖の把握  
学校評価による成果と課題の明確化



P 課題改善のための計画の構想

指導計画、指導方法、板書計画、  
評価方法の立案

D 計画に基づく指導の実践と修正

各教科等における指導の実践  
ショートスパンでの評価と修正  
多様な研修の工夫と指導力向上  
保護者・地域との連携

授業外  
での実践

授業周辺における手立て

学力向上タイムでの積み上げ

- ◇ 学力向上タイムの継続的な実施  
(火曜・木曜12:55～13:05) 10分間  
・国語・算数の学習内容の習熟  
※繰り返しドリル学習・プリント学習  
※定着確認シート・活用力育成シート

家庭学習の充実

- ◇ 家庭学習の習慣化  
・(学年+1)×10分  
・自主学習の習慣化
- ◇ 家庭学習の仕方の習得  
・自主学習コンテスト  
・学校の学習とのリンク

読書活動の充実

- ◇ 読書習慣の形成  
・読書タイム(12:55～13:05)  
・読み聞かせ
- ◇ 家読・ノーマディアの実践  
・毎週水曜日の家読・ノーマディア

学力向上

めざす児童像

ゆめにむかって、学び続ける子ども

## 授業改善チェックシート

矢祭町立矢祭小学校

A : よく努力した

B : 努力した

C : 努力が足りなかった

D : 努力できなかった

段階	ポイント	チェック項目	確認			
			1週	2週	3週	4週
課題把握	○魅力ある学習課題の設定	① 児童の課題意識を高める、子どもにとって魅力と必然性のある学習課題を設定するよう努めているか。(○○はどうすればできるか? など～)				
	○明確な解決の見通し	② 答えの見通し、どんな手順でどうやって解決するかの見通しを持たせるよう努めているか。				
課題解決	○課題解決のための学習形態	③ 自力解決の場を設定し、児童が自分で考える時間を位置づけるよう努めているか。				
	○学び合い・発問・板書の工夫	④ 傾聴・話し合い・学び合いなど、児童の自力解決の経過と結果を交流する場を位置づけているか。(ペア・グループ・全体)				
	○教師のコーディネート	⑤ 児童の思考が広がったり深まったりするよう問い返し、話し合いのコーディネートに努めているか。(予想、再生、要約、発見、推測、共感、補助)				
		⑥ 子どもの思考の足跡が分かる構造的な板書となるよう努めているか。				
まとめ	○まとめ	⑦ 何を考えたらよいか、何を答えたらよいかを明確な発問をするよう努めているか。				
	○評価と習熟	⑧ 一人一人を学びを適切に評価し、前に戻って指導するか習熟に進むかを判断するよう努めているか。				
		⑨ 学習課題と整合性のあるまとめをするように努めているか。				
		⑩ 1問以上の習熟の時間を位置づけるよう努めているか。				

適切で必然性のある学習課題を設定できれば、子どもは何を解決するのかが分かり、学習意欲に火がつけます。また、課題解決において子どもと教師との1対1の問答から抜け出すには、みんなが関わって学習する学級風土づくりと、話し合いのコーディネート力につきます。まとめでは、何ができるようになったかをきちんと振り返り、確かめるための習熟の時間を確保しましょう。



## 学力向上グランドデザインマネジメントワークシート

【別紙様式】

## 令和元年度学力向上グランドデザインマネジメントワークシート

( 矢祭町立矢祭小 ) 学校

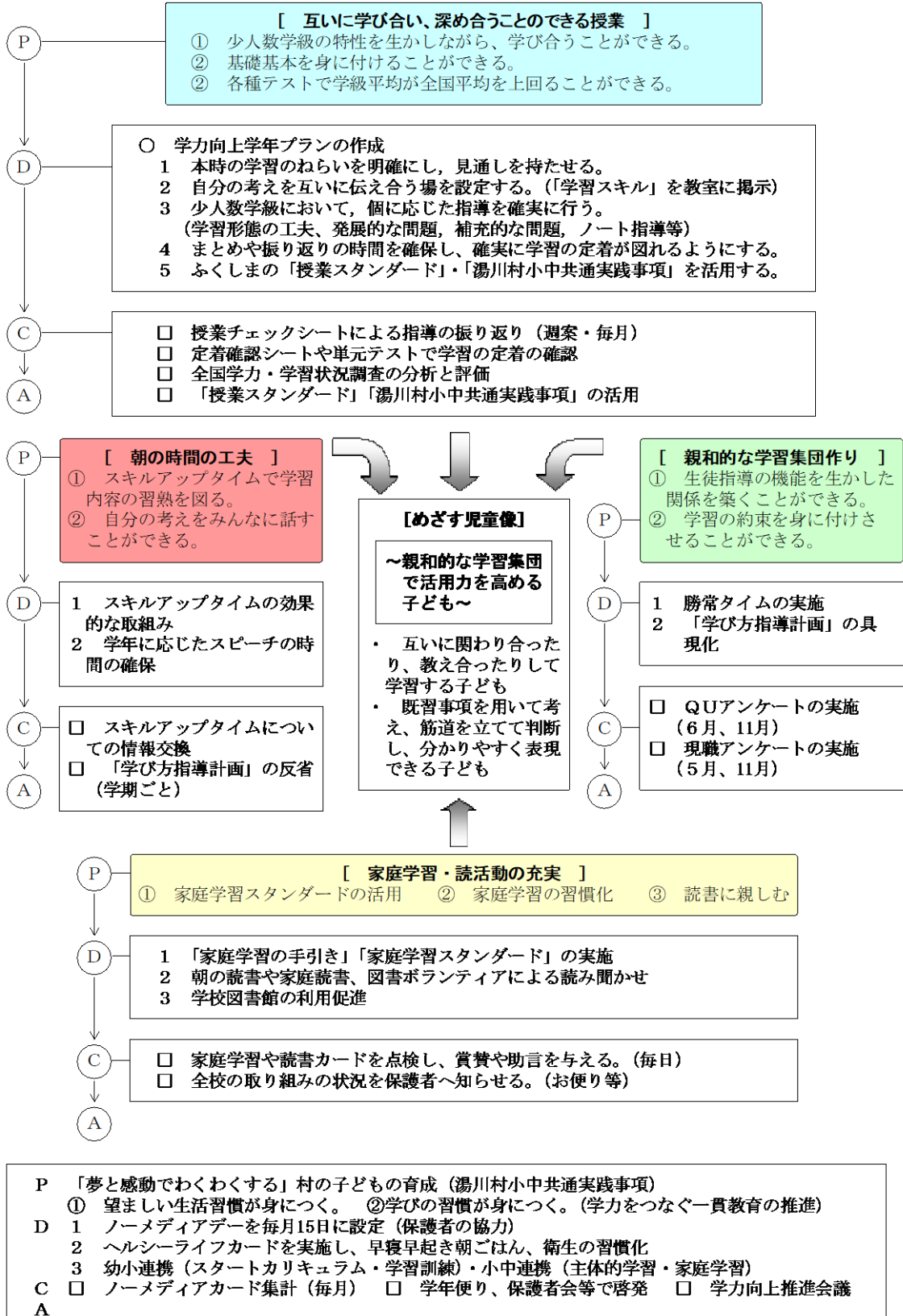
Research	Plan	Do	Check	Action	Check	Action	Check	Action	成果と課題
昨年度の課題	計画のキーワード	実行(何をどうする)	評価・結果	改善策	評価・結果	改善策	評価・結果	改善策	
<p>本校の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学力及び学習意欲に個人差が見られる。</li> <li>● 互いに伝え合うことを通して得た知識や技能を活用しながら、さらに自身の考えを深めていく力が十分に身につけていない。</li> </ul>	<p>今年度の共通理解</p> <p>① 児童の学習意欲を育て、主体的に学ぶための学習環境を整備する。</p> <p>② 児童の基礎基本の確実な定着と活用力の向上を図る。</p>	<p>共通実践事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習記録徹底のための確認シートを活用して、学級の実態把握に努める。</li> <li>○ 「わかる、できる」授業の実践を通して、児童の学びに向かう力を育成する。</li> <li>○ 「何を学ぶのか」「何が分かったのか」「何が明確な授業を構築する。」</li> <li>○ 学習内容と児童の学習能力を捉えた適切な学習合いの場を設定する。</li> <li>○ 集団思考における話し合いのコーディネートを実施させる。</li> <li>○ 理解を深めるための話す・書くアウトプットの場を位置づける。</li> </ul>	<p>6～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 毎週「授業改善チェックシート」による授業の振り返りを行ってきたこと</li> <li>● 教師の授業づくりに対する意識が高まってきた。</li> </ul> <p>6～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童の疑問を大切にしたい学習課題を意識して設定してきたことで、児童の学びに向かう意欲が高まってきた。</li> <li>● 「授業スタンダード」にこだわらなくなり、画一的で児童の実態に合っていない授業になってしまっただけであった。</li> </ul>	<p>8～10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ブロックごとに互見授業を実施し、自己の課題を明確にしていく。</li> <li>● 教材の視覚化など、児童の理解を促していくための工夫が必要である。</li> <li>● 「自分の考えを伝えたい」「友達との考えを知りたい」という思いを生み出せるよう、学習課題にしかけをもたせる。</li> <li>● 「授業スタンダード」をベースとして、教師がもつ課題を解くためのポイントを絞った授業づくりを進めていく。</li> </ul>	<p>10～12月</p>	<p>12～1月</p>	<p>12～1月</p>	<p>2～3月</p>	
<p>本校の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭学習を進んで行う習慣が十分に身につけていない。</li> <li>● 児童の読書量が少なく、文章を読むことに慣れていない。</li> </ul>	<p>今年度の共通理解</p> <p>① (学年+1)×10分を基本とした家庭における学びのサイクルを構築する。</p> <p>② 読書活動への興味・関心を高め、読書習慣を形成する。</p>	<p>共通実践事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「家庭学習スタンダード」を活用し、家庭学習の習慣づくりに取り組む。</li> <li>○ 学習習慣を見直し、個に応じた自主学習の仕方を身につけさせる。</li> <li>○ 教職員・ボランティアによる読み聞かせなど読書タイムを効果的に実施する。</li> <li>○ 家庭と連携した読書・ノートメディアを実施し、読書活動を推進する。</li> </ul>	<p>6～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 4月の授業参観・懇談会の際に、各家庭に「家庭学習の進め方」を配付して周知を図った。</li> <li>● 給食後の読書タイムといつでも読書をできることを確保して実践することができた。</li> </ul>	<p>8～10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日々の家庭学習の状況を把握し、学年単位などで適宜家庭での協力を得るよう努めていく。</li> <li>● 学年の読書量(多読賞)を意識させたり、担任や学校司書から図書紹介をして、読書意欲を喚起していく。</li> </ul>	<p>10～12月</p>	<p>12～1月</p>	<p>12～1月</p>	<p>2～3月</p>	

授業

授業周辺部

## 学力向上グランドデザイン

平成31年度 湯川村立勝常小学校 学力向上グランドデザイン



学力向上グランドデザイン

平成31年度 学力向上グランドデザイン

南会津町立南郷小学校

教師の願い

- 基礎学力の向上
- 授業における学習規律の定着
- 家庭学習の習慣化

教育目標

ひびき合い、ともに高まる南郷の子  
心豊かな子 よく考え進んで学ぶ子 たくましい子

◇【本校の学力上の課題】  
基礎的な学習内容は、十分に付いている。

- ◆国語の「話す・聞く」に課題
- ◆発展的な内容、活用問題に課題

目指す児童像

確かな学力を身につけ、自分らしさを発揮し、ともに高まろうとする子ども

31年度の重点課題とその取り組み

授業の改善と基礎学力向上

- ◎**確かな学力をつけるための授業の改善・工夫**
  - ・「授業スタンダード」を基盤にした授業づくり（「スタンダードチェック表」「先生の授業をチェックしてください」の活用）
  - ・読解力の向上を図る指導の工夫
  - ・各種テストの結果分析、課題の明確化
  - ・よい聞き手・話し手の育成、コーディネートの向上
- ◎**基礎基本の確かな定着**
  - ・学力向上タイム・チャレンジタイムでの補充・発展
  - ・小テスト、学期末テストの実施（合格まで徹底活用）
  - ・活用力育成シートの活用（授業で実施）
  - ・各種調査問題の有効活用
- ◎**読書に親しむ活動の工夫**
  - ・「ブックリスト」「読み聞かせ」による多様な機会の設定と読書タイムを通じた継続的な読書指導

アンダーアチーバー 0人！ 単元テスト平均90点以上

児童の願い

- 学習がわかるようになりたい。
- 先生や友達に認めてほしい。
- 楽しい学校生活を送りたい。

保護者の願い

- 「わかる授業」の展開・基礎学力の向上
- 伝える力の向上
- 児童と教師の信頼関係の構築
- 地域の良さを生かした学習

学習の基盤・心の教育

- ◎**望ましい人間関係の構築と南郷のよさを実感し、よりよい校風を創る**
  - ・一体感の醸成、よさを認め褒める指導
  - ・「Q-U」「学級経営スタンダード」の活用（満足群70%以上、不満足群10%以下）
  - ・思いやりや親切を言葉と行動で実践し、共感的に理解し合える児童の育成
  - ・道徳科の授業の充実
  - ・地域のよさを進んで学び、発信する力の育成
  - ・朝の運動タイムを通じた継続的体力づくり
  - ・望ましい礼儀・作法の定着
  - ・（あいさつ・返事・時と場に応じた言動）
  - ・がんばる姿の賞賛、励まし合い、支え合う意識の高揚（ありがトマトの活用）

不登校0！ いじめの未然防止！

家庭学習の習慣化

- ◎**保護者との連携による家庭学習の定着**
  - ・「家庭学習スタンダード」「家庭学習の手引き」を活用し、時間のめやす（学年×10分）や学習の進め方について提示
  - ・「家庭学習チェックカード」を活用して、個々の児童の家庭学習の状況を把握。
  - ・家庭学習を見直す機会の設定
  - ・学期1回の家庭学習強化週間の実施
  - ・自主学習ノートを廊下に掲示し、みんなで見合うことができている環境づくり（自主学習ノート展の実施、見本ノートの展示）
  - ・家での読書を奨励（週末読書・親子読書）
  - ・メディアアコンテロールの推進と家庭のルール作りの啓発

家庭学習の定着率95パーセント以上！

## 南相馬市立大甕小学校

## 平成31年度（令和元年度）「授業改善の重点」

基礎基本の定着と活用力の向上～全国トップレベルの学力を目指して～

## 1 重点的に取り組むべき課題

- (1) 低学年 …話し合い・学び合いを通じ、児童生徒相互啓発するような授業の設定  
 (2) 中・高学年…目的に応じて資料を読み取り、話したり、書いたりする活動の指導

## 2 改善に向けた具体策

## 1 話し合い・学び合いを活かした授業を行う

〈話し合いの活動の場を設定する〉

- ・相手に伝わるような話し方・相手の考えを理解しようとする聴き方の指導を徹底する
- ・学習形態（ペア・グループ等）を工夫して意識的に取り入れる。

## 2 課題設定の工夫をする

〈子どもに見通しを持たせる〉

- ・ICT活用した具体的な資料の提示
- ・日常性のある資料を準備することで課題意識を持たせる。

## 3 書く力を育てる

〈振り返りを書く時間の確保〉

- ・まとめと振り返りの時間の確保のために、授業の展開の内容を精選する
- ・めあてや条件に合った、まとめや振り返りを書かせる指導。

## 原三中ブロックにおける授業改善・家庭学習の充実に向けた改善策について

学力向上部

〈令和元年度第1回域内学力向上推進研究協議会より〉

- ① 「自己マネジメント力育成シート」を5・6年生での継続的に行う。  
 → 現在、縦断中。西階段階り場に掲示、計画・反省の内容は、下の学年にも参考になりますので、学級の児童にも目を通すようお願いください。
- ② まとめ・振り返りの時間の確保（マグネットでの掲示等）

## 福島県・南相馬市の「まとめ・振り返り」の捉え方

「授業スタンダード」	<p>「何を学習したか」を明確にする。「どのように学習してきたか」を振り返る。</p> <p>A 「見方・考え方」を伴った理解の深まり      「今日は〇〇という学習をして、□□というまりに気付いた！」      B 自分の成長や変容、友達とのよさや集団で学ぶよさなどの気付き      「〇〇さんのあの考えは、すごいなあ！」      C 充実感、達成感、有能感などの学びの手応え      「練習問題を解いたら、〇〇の使い方がよく分かった。」      「今日学んだことは、こんなところにも使われているんだね。」      「明日はもっと上手に説明できるようになりたいな。」      D 新たな課題の発見      「もし、〇〇だったらどうなるの、家で調べよう。」      「この時は、一体どうなるの、自分で解いてみよう。」 → 家庭学習への繋がり</p>
「新・南相馬の授業スタイル」	<p>「書く振り返り」…本時の学習を通して感じたことや考えたことを自分の言葉でまとめる。感想…本時の学習内容を振り返り、考えたり感じたりしたことを自由に記述する。作文…本時の学習を振り返り、考えたり感じたりしたことをテーマや条件に合わせて作文する。</p> <p>「解く振り返り」…本時の学習を通して身につけたスキルを活かして、適用問題に取り組む。適用…本時を振り返り、補充・発展できな練習問題に取り組む。</p> <p>※必要に応じて、自己評価（評価表に記号等を記入）も組み合わせる。</p>

上記の内容を受けて、振り返りの視点を作成して、学級で活用していただければと考えました。裏面へ…秋田県の振り返りをもとに小高小学校へ作成・活用している振り返りの視点です。

月 年 番 名( )

自己マネジメント力を身につけよう！！

自己マネジメントとは？

Research 自分を知る… 自分を見つめ直し、得意なことや苦手なことを把握する。  
 Plan 計画する … 見つめ直した結果、課題になったことに合う目標や計画を立てる。  
 Do 自ら学習する … 計画にそって、自分から進んで学習に取り掛かる。  
 Check 確かめる … 学習した内容や結果、取り組み方を振り返る。  
 Action 見直す … 学習の内容や方法を振り返り、修正する。（振り返りシートの活用）

1 家庭学習の表裏（高学年）… 配付されている「家庭学習の手引き」を見て確認しよう。

2 家庭学習の計画と反省 ☆1週間分の記録をしよう☆

予定する内容		実際に取り組んだ内容	
日	時間	学習内容	宿題の内容
月	90分	理科(たしかめよう) 宿題	計算7月23 漢字スキル18 算数「いさる」
火			
水			
木			
金			
土			
日			
合計		←合計時間を記入する。	

「自己評価」の目安 取組めた回数に応じて評価しよう  
 ◎→5日以上、○→4～5日、△→3日以下。

3 保護書の読みと書き  
 福島県では、「家庭学習スタンダード」(配付済み)を活用して、子ども・保護者・教師が一体となって家庭学習に取り組む。子ども達に自己マネジメント力を養うことを推進しています。大甕小学校では、小学校高学年のうちに中学校進学を見据え、子ども達が自分の課題を見つめ、改善する機会を設定することで、自己マネジメント力の習得を確実にしたいと考えています。お忙しいとは思いますが、お子さんが立てた学習の計画や実施内容、反省等を確認いただき、「保護書」の欄に授業や家庭の一書を書いていただくとお子さんの成長が喜ばれますので、協力をお願いします。

理想とする授業

<p><b>教師の働きかけ</b></p> <p><b>問題提示を工夫すると…</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の問題をベースに工夫した問題</li> <li>考えれば答えに手が届きそうな問題</li> <li>既習事項を生かして解けそうな問題</li> <li>興味や必要感を持つ問題 (ゲーム化、ストーリー仕立てなど)</li> <li>提示の工夫 (視覚的に訴える 誰でも問題場面を理解できる)</li> </ul> <p><b>見通しの持たせ方を工夫すると…</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上位の子も下位の子もみんな同じ土台に立てるように</li> <li>最低限そろえるべきところはそろえる</li> </ul> <p><b>めあてって…?</b></p> <p>【あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの疑問やつぶやきをめあてに</li> </ul> <p>【なし】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全員が課題解決の方向に向かっていればなくてもよい</li> </ul> <p><b>課題解決の場や話し合いの場を工夫すると…</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自力解決台ペア・グループは全体</li> <li>できる子とできない子の差をうめるための工夫</li> <li>コース別学習</li> <li>話しやすい人、聞きたい人と話し合う</li> <li>対話させるためのツール、具体物・半具体物の準備</li> </ul>	<p><b>めざす児童の姿</b></p> <p>主体的・対話的に学び合う姿</p> <p>全員が興味を持つ</p> <p>おもしろそう!</p> <p>やってみよう!</p> <p>うーん、難しそう…でも、何とかしたい!</p> <p>全員が見通しを持つ</p> <p>前に学習したことを使ってください</p> <p>ブロックを使おう</p> <p>図をかいてみよう</p> <p>教直線を使って…</p> <p>式と言葉をつなげて…</p> <p>できるかもしれない!</p> <p>全員が自分の考えを表現できる</p> <p>一緒に考えよう!</p> <p>どこまで分かる?</p> <p>この方が簡単だよ</p> <p>この方が分かりやすいよ</p> <p>どうやったらできるか教えて</p> <p>どういうこと?</p> <p>もう1回教えて!</p> <p>これでいいのかな?</p>
---	--

<p>「どうか!」</p> <p>「なるほど!」</p> <p>「こんな考えもあったんだ!」</p> <p>「メモを取りながら聞く」</p> <p><b>発言をつなぐコーディネーターって…?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意図的指名・話しすぎない</li> <li>肯定しない(児童に肯定させる)</li> <li>ゆさぶりをかける・反例を出す</li> <li>間違ってもいい雰囲気作り</li> <li>理解できているかどうか確認</li> <li>発表会にならないように</li> </ul> <p>「えっ?なんで、なんで?」</p> <p>「もう1回言ってみて」</p> <p>「本当にこれでいいのかな?」</p> <p>「この図を式にできなかな?」</p> <p>「式の意味を説明できなかな?」</p> <p><b>まとめとして…</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの言葉で</li> <li>次の学習に生かせるものを積み重ねていく</li> <li>練習問題を解いてから言葉でまとめる方法もあり</li> <li>言葉でまとめるだけではなく、練習問題をまとめとしてもよい</li> <li>次の学習の見通しを持たせる</li> <li>新たな疑問や問いを拾い上げる</li> </ul> <p>「この先はどうなんだろう?」</p> <p>「他の場面でも使えるかな?」</p>	<p>「友達の考えを聞いて、気づいたよ」</p> <p>「分かった! 教えて!」</p> <p>「ここまでいいですか?」</p> <p>「指し示しながら説明する」</p> <p>「書き加えながら説明する」</p> <p>「友達の考えを説明できる」</p> <p>「友達の発言につなげて説明できる」</p> <p>「こうだったらどうかな?」</p> <p>「となりの人ともう一度確認してみよう」</p> <p>「全員が達成感を味わう」</p> <p>「分かった!」「楽しかった!」</p> <p>「解けてスッキリした」</p> <p>「難しかったけれど、おもしろかった」</p> <p>「次の時間の問題も解けようだよ」</p>
--	--

1 授業につながる教材研究の工夫

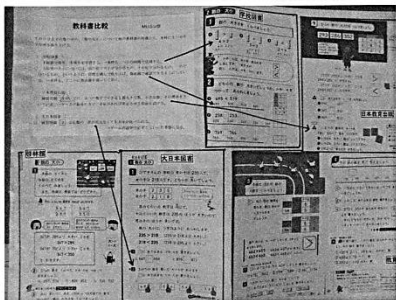
(1) 教科書の比較

6つの教科書会社「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「啓林館」「日本文芸出版」の教科書を以下の点について比較した。

- 取り扱う素材
- 素材の取り扱われ方
- 指導回数
- 指導時期
- 指導方法 等



各教科書会社の教科書を比較したことで、どの教科書も共通して大切にしている部分や、指導方法や指導過程の違いによる子どもの思考の進み方などについて理解を深めることができた。



2 授業につながる資料の発信

(1) 「この本、いかが?」

授業づくりに役立つような文献や資料を探し「この本、いかが?」として発信した。

MUSU部 この本、いかが?②

【スペシャル企画】算数科授業 成功の極意 宮本 博規 著 明治図書 1,760円(7.6年現在の税込価格)

「算、んん、NHK教育テレビ『わかる!』という番組で、ゲームしながら子ども達が楽しく算数を学習している姿を見ました。こんな授業をやるのがいいのだと、感心し、ワクワクしました。しばらくして、雑誌で「あ、あのの先生だ!」と本名を知りました。それから、私も「この算数の内容は、ゲーム化できないかな?」と考えるようになりました。すると、子ども達に理解させたいとは何のめ、よと考えるだけじゃありません。算数の面白さやゲーム化できた、という授業は、1つだけなのですが、実現しました。しかし、この本は、ゲーム化がメインではなく、算数にむかふ、宮本先生の「算数授業作りの最大成」です。算数にむかふこと自体が楽しんでいる、というメッセージです!